

## ウサギと共に生きる

この事例は、「飼育していたウサギの死を経験し、その後、興味と愛着をさらに深め、ウサギの命を守るためにウサギをよく知り、自分たちの関わり方を考え工夫するなど、生き物との豊かな体験をしている」実践です。ウサギの死の経験から、保育者自身も生き物の命を守ることへの覚悟と責任を感じ、専門家との連携を積極的に取り入れています。子どもたちは、日々、ウサギと関わる中で愛着をもち、関わりを深め、自分たちの思い通りにならない経験もしながら、生き物の立場に立って考える姿に「科学する心」の育ちを捉えることができます。

## 学校法人あおい学園 あおい第一幼稚園

4～5歳児

## 場面1：“しろろ”の死… 4歳児5月

進級し、ウサギの世話をしていたが、ある日、突然“しろろ”の死と出会う。原因は毛球症。死から数日後、ウサギの話題が聞かれなくなった。子どもたちとウサギとの関係はまだそれほど深まっておらず、ペットのように扱ってしまったことに保育者は気付く。保育者が、子どもたちとウサギの死について考える機会を逃してしまっただけでなく、子どもたちと理解し合えるまで話し合い、「子どもたちにとって飼育とは何か」「ウサギとの関係がなぜ希薄になってしまったのか」を改めて考える必要性に気付かされた。

## 場面2：ウサギの生態を知りたい 4歳児5月

・保育者は、まず第一に自身がウサギのことを理解しようと考えた。暑さ・寒さに弱いことを知り、飼育環境を改善する。さらに専門家に相談、毎月ウサギの健康診断をしていただくことになり、子どもたちも一緒に研究室に行く。  
S先生：「ウサギの心臓の音を聴いてみよう。小さい動物ほど、速度が速いんだよ」  
Aさん：「じゃあ、**子どもと大人も心臓の速さが違うのかな？**」  
Bさん：「幼稚園にいるモルモットはウサギより小さいから、**もっと速いんだね**」  
S先生：「ウサギの健康状態を知るには、触ることが最も大切なんだよ。触ることで変化に気付くことができるからね。ウサギは寒さに弱いから、気温が10℃以下なら、お部屋に入れてあげてね。天気の良い日は外に出してあげてね。でも、暑さにも弱いから、30℃になったらお部屋に入れてね」

育ちのキーワード：発見・驚き・疑問



(東京農工大学准教授 / 鈴木馨氏)

## 場面3：仲良くなりますように！ 4歳児12月

・新しく1羽のウサギが仲間入りし、“ちょこりぼん”と名前が付けられた。攻撃的で、特に“ちょこあ”に攻撃する姿が見られた。S先生から、「4羽を一緒にする時間を少しずつ増やしていくと良い」とアドバイスをいただく。子どもたちは、様子を見て4羽をサークルに入れてみる。  
Cさん：「**今日の“ちょこりぼん”おとなしいね！**」  
Dさんが、「もう、仲良くなれたんじゃない？」と言って観察していると、急に攻撃的になり、「やっぱりだめか…」「僕たちなら、すぐに仲良くなれるのになあー」と、なかなか**思い通りにならない**日々が続く。  
・1羽が仲間入りしたことで、ウサギの中の関係が崩れてしまったことを、子どもたちは目の当たりする。なんとかウサギが仲良くなるように、兄や姉になったような気持ちでウサギに接する。この**可愛いウサギたちを何とかしてあげたいという思いや行動**が、自然と見受けられるようになる。ありのままの“ちょこりぼん”を受け入れている。

育ちのキーワード：思いやり・工夫



## 場面4：ウサギたちの安全のために！ 5歳児4月

・休日に、ウサギが穴を掘って小屋から逃げて、床に穴が空いてしまった。みんなは、ウサギの気持ちを考える。「カラスに食べられたらかわいそうだから、**小屋の中にいた方が安全だよ**」「**掘るのが好きだけど…怪我をしないように**、穴を掘らないようにした方がいいよ」などの考えが出てくる。ウサギの安全を守るために、まず子どもたちが、**大事に考えていたのは、“ウサギが、怪我をしないようにすること”**だった。穴を石で埋め、床に網を貼った。「網だけだと怪我しちゃうかもしれないけど、板を乗せたら大丈夫だよ！」と考え、やってみた。  
・すのこを乗せたら、糞が土に落ちて掃除が楽になり、ウサギが土を掘って外に出ることや、怪我をすることもなかった。「作戦大成功！」と、子どもたちは自分たちなりに一生懸命考え、行動に移したことがうまくいき満足げな様子であった。

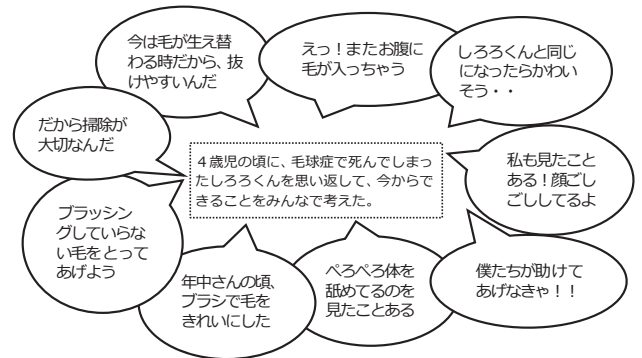
育ちのキーワード：想像・思いやり・アイデア・共有



### 場面5：換毛期にできること！ 5歳児5月

- ・Tさんがウサギの飼育の本を読んでいると、「換毛期」という言葉を見付けた。そこには、ウサギは気温に合わせて毛が冬毛、夏毛に生え変わるということが書いてあった。
- ・「あれ？ウサギさんの毛がいっぱい抜けている。さっきの本に書いてあったことかも！みんなにお知らせしに行こう！」
- ・Tさんは、保育者やクラスの仲間に、自信に満ちた表情で、“換毛期の言葉の意味”と“小屋に毛が抜けていたこと”を伝えた。そして、これから**自分たち**にできることを話し合った。

育ちのキーワード：推測、共感、振り返り、使命感、責任感



### 場面6：30度を超えたら… 5歳児5月中旬

- ・とても暑い日があった。「暑い」「暑い」と感じていた時、子どもたちは、「ウサギは大丈夫か」と心配になり、小屋を見に行く。ウサギ小屋の中にある気温計を見てみると、29℃であった。
- ・するとCちゃんが、4歳児の頃に「30℃を超えたら部屋に入れるんだよ」とS先生からと教えていただいたことを思い出した。
- ・他の子どもたちも「そうだった…」と思い出し、「ウサギたちって暑さに弱かったよね」「自分たちは暑かったら、クーラーのかかった涼しいお部屋に入れるけど、ウサギたちは小屋から出られないもんね」と言う声が聞かれた。そこで子どもたちは、「気温を測る」「30℃を超えたら、お部屋に入れてあげる」という約束を自分たちで決めた。

Eさん：「先生！30℃になったよ。早くお部屋に入れなきゃ！」

Fさん：「ダンボール持ってきたから、この中にウサギを入れて運ぶよ！」

育ちのキーワード：思いやり・意欲



### 場面7：抜け毛をきれいにしよう！ 5歳児6月

- ・換毛期に自分たちができることについての話し合いは、現状の把握、どのようなことが起こるかを、**予測したり推測したりと、仲間の意見に共感**しながら展開した。そして、抜け毛を取る方法を考え合い、試してみた。

#### ☆くしてやってみよう

「だめだー、毛が細くてフワフワだから、スルスル通っちゃうよ」

#### ☆ブラシでやってみよう

「いらぬ毛だけブラシに集まったよ！」「いいかもしれない」「でも嫌がっちゃうな…」「毛が生えてる方から優しくやらないと痛いんじゃない？」「ブラシを見ると何されるんだ？って逃げちゃう」「怖いかな…」

#### ☆濡れた手が一番取れる！

転んでしまって、手を洗ってきた子がうさぎを撫でたら…。「あ！毛が取れた！」「もしかしたら、濡れた手で“いいこ、いいこ”ってしてあげた方が気持ちいいんじゃない？」「撫でてもらうの、大好きなんだね」「僕たちも気持ちいいから、これが一番いいやり方だね！」

育ちのキーワード：  
自主性・協力・試行錯誤



**【考察】** ウサギは、人間同士のように会話ができない相手なので、気持ちを理解するために、子どもたちは、ウサギの行動やしぐさをよく観て察しようとしていた。「自分たちが体感したことは、きっとウサギも同じように感じているだろう。自分たちが暑いから、ウサギも暑いのもかもしれない」と、自分と重ねて理解しようとしていた。

飼育活動では、日常的に生き物を身近に感じて生活をしているため、園で毎日のように継続して関わりをもつことができる。そのため、生き物の成長に気付く、季節による変化や、ウサギ間にも相性があることなど、多くの学びを得ることができた。

2年間続けて飼育をしたことで、より愛着が湧き、繰り返し季節を過ごしたことで、前の年の反省や気づきを振り返り、飼育活動に活かすことができたのではないかと考える。